

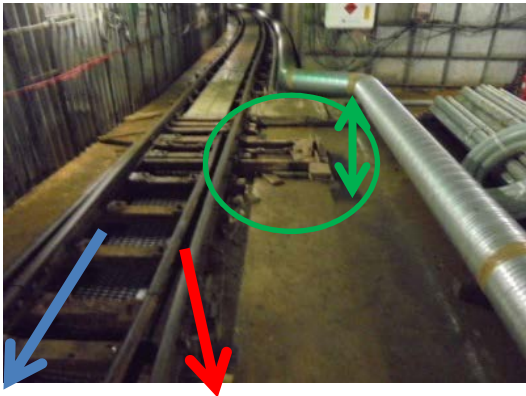
## レール工法トンネル工事での見える化

内容)

レール工法のトンネルでは、レールのポイントの切り替えで進行方向を変える（注1）。通常はポイントがどちらに向いているかを確認しづらかった。また目視ミスによりポイントを通り過ぎてからバックしポイントの切り替えを行うこともたまにあった。そのためポイントの行き先を見える化（注2）にした。

トンネル内は暗いため、照明で照度を保っているが電車により照明の影が出来（注3）、歯止めを見落としそのまま発進し脱線することもあったため、歯止めも見える化（注4）を行った。

（注1）



手動切り替えレバーを前後に倒すことでポイントが切り替わり、電車の進行方向が決定

電車を運転しているとどちらに進行するのかが分かりづらい。

（注2）

手動切り替えレバーに進行方向（本～本線、支～支線）を表示。遠目からでも視認できるようにポイントの向きを見える化を行った。



(注 3)



電車で照明が当たらず歯止めをしているの見落とし、  
歯止めに乗り上げ脱線することも。

(注 4)



歯止めに歯止め有り表示を取り付けることで見える化を実施  
一手間加える事で歯止めの設置・撤去忘れを防止出来た。